

ノウサギの生態に関する研究 (K)

— 食性について —

鹿児島県林業試験場 谷 口 明

1. はじめに

ノウサギは摂食する植物の種類がきわめて多い。しかしながら、その嗜好性は一般に種類によりかなりの差のあることが認められる。また、林地に残されたノウサギの糞粒を数え、その粒数から生息密度を推定するに際しては、一日一頭当りの脱糞粒数を知ることが必要とされるが、この一日一頭当りの脱糞粒数は摂食した植物の種類により変動する(筆者 1972)¹⁾。このため、ノウサギの食性に関する知見は造林木に対する被害防止策を探る上で、また、生息数(密度)の推定に際し必要である。

トウホクノウサギ(*Lepus brachyurus angustidens*)の食性については大津(1974)²⁾が詳しく報告しているが、キュウシュウノウサギ(*L. b. brachyurus*)の食性については系統だった研究がみられない。筆者はキュウシュウノウサギの食性について野外観察および飼育獣に対する給餌実験により調査した。ここでは、食餌植物の種類とその嗜好性ならびにその季節変動について述べる。

2. 調査方法

野外における食餌植物は食痕を記録、および野外採取個体の胃内容物を顕鏡して調べた。食痕は1975年1月から1982年3月まで鹿児島県下の林野で不定期に記録した。胃内容物の調査は1981年1月から1982年1月まで姶良郡蒲生町内で11月から2月、および9月に採取した31個体を使って実施した。

食餌植物の季節変動は1980年11月から1982年2月まで薩摩郡入来町浦之原のヒノキ2~4年生林分9.55 haで毎月一回食痕を記録して調べた。

3. 結果と考察

県下全域における食痕の記録、および飼育実験による食餌植物は表-1に示した。また、ヒノキ幼齢造林地における食餌植物は月別に表-2に示した。なお、表-2に出現した植物は表-1では除外した。

胃の内容物調査では内容物の細片化が著しく、同定の不可能なものが多かった。したがって内容物はすべての種について同定されたものではなく、細片化され

ても種の特徴が明確なものに限って検索したものである。調査結果は表-3に示した。

検索された食餌植物は53科140種で、科別でみると最多種数はキク科の16種、ついでマメ科の11種、イネ科の10種、バラ科とオシダ科の各8種、ユリ科の7種セリ科の6種などであった。草本、木本別では、草本が92種、木本が48種で、草本が全食餌植物種数の約66%を占めた。

ヒノキ幼齢造林地における食餌植物の季節変動をみると、春から夏期の3月下旬から8月にかけてはキク科、セリ科、マメ科のクズ、アカネ科、タデ科、ユリ科のサルトリイバラなど陽生の草本植物、および木本のなかでもツル植物を主に採食していた。秋期の9月から11月にはイネ科のチヂミザサ、アシボソの穂を好んで採食しており、また、ヤマノイモの葉も好んで採食された。冬期の12月から2月にかけてはキャツリグサ科のコゴメスゲ、シラスゲの葉と穂の採食が多く、また、広葉木本類の小枝と樹皮が好んで採食された。木本類のなかではフユイチゴの茎と葉柄、イヌビワの小枝と樹皮、ヒサカキの小枝の採食が特に多かった。造林樹種のヒノキは4・5月に樹皮の食害が多かった。これは、この時期のヒノキは生理的にノウサギが好む条件下にあるものと推定される。

県下全域の林野での観察では冬期間は前述した植物の他に多くの林分でメダケの葉、イワガネの小枝、シユンランの葉がよく採食されていた。

11月から2月に採取された個体の胃内容物調査ではメダケの葉、コゴメスゲの葉と穂、チヂミザサの穂、フユイチゴの葉と茎の出現頻度が高かった。

冬期における食痕、および胃内容物調査ではハナミョウガ、シダ類の出現する頻度は高いものの、その採食量は少なく、飼育個体を使った給餌実験でも採食量は極めて少なかった。なお、給餌実験で最も好んで摂食した植物はキク科のアキノノゲシ、ノゲシ、オニタビラコ、ヤクシソウ、タンポポなどであった。

これらの調査結果から、ノウサギは夏期と冬期で食性をかなり異にしていることが知られた。夏期は陽生の草本植物やクズなどのツル植物を主に採食し、秋期はイネ科の穂、冬期はキャツリグサ科、フユイチゴなどの陰生の草本、ツル植物、また、広葉木本類の小枝、

樹皮, 葉を主に採食する。

表-1 鹿兒島県下に生息するキュウシュウノウサギの食餌植物
採食部位 L:葉 P:葉柄 S:莖 T:小枝 BK:樹皮

科名	採食部位	種名
セリ科	L. P	ニンジン オオバドメ シシウド※
マメ科	L.S.T	シロツメグサ ゲンゲ ダイズ ツルマメ※ ニセアカシア※ カラスノエンドウ※ カスマグサ※
ユリ科	L.	ヤマラッキョウ, コヤブラン キチジョウ ソウ ヤブラン
シソ科	L.	キランソウ
ヒユ科	L.S.	イノコヅチ
キク科	L.	オニタビラコ※ ノゲン※, オニノゲシ※ カワラヨモギ※ カンサイタンポポ※ シロバナタンポポ※ ヨメナ※ アレチノギク※
アカザ科	L.	ホウレンソウ
アブラナ科	L.S.P.	キャベツ※ ハクサイ※ ダイコン※ ナズナ※ ミミナグサ※ ウシハコベ※
ナデシコ科	L.S.	オオバコ※
オオバコ科	L.	ムラサキケマン※
ケシ科	L.	ギシギシ※
タデ科	L.S.	ノアサガオ※ サツマイモ※
ヒルガオ科	L.S.	ヤエムグラ※
アカネ科	L.S.	オニドロ※
ヤマノイモ科	L.	シュンラン
ラン科	L.	ムギ カモジグサ メダケ ササクサ
イネ科	L.	ホウライチク イタリヤン・ライ・グラス※ オオアブラガヤ フモトシダ
カヤツリグサ科	L.	ミゾシダ コバノカナワラビ ノコギリシダ
イモトウ科	L.	イノデ ツクシイワヘゴ ヤブノテツ
オシダ科	L.	ゼンマイ コモチシダ ボタンズル ノブドウ※
ゼンマイ科	L.	コアカソ オオサンショウソウ ラミー※
シシガシラ科	L.	イズセリョウ
キンポウゲ科	L.	コヤムミ
キク科	L.	ヤマザクラ
ブドウ科	L.	コジイ イチイガシ
イラクサ科	L.T.	ダラノキ
ヤブコウジ科	L.T.	クロキ ハイノキ
ニシキギ科	T.	アオキ ハナイカタ※
バラ科	T.	ナンテン ※給餌実験によるもの
ブナ科	L.T.	スギ
ウコギ科	T.	クロマツ
ハイノキ科	T.	
ミズキ科	P.	
メギ科	BK.	
マツ科	T.	

表-3 胃内容物とその出現頻度(数値は出現頻度)
同定部位 L:葉 E:穂 S:莖 種:種子

年月	1981					年月	1981				
	1	2	9	11	12		1	2	9	11	12
調査個体数	5	4	6	6	4	調査個体数	5	4	6	6	4
チヂミザサ	1	3	3	2	1	シラスゲ		3		1	
メダケ	2	2	1	3	2	イワガネ			3		
ススキ		2	2	2	4	コアカソ			1		
ササクサ		2				ミゾシダ	1				
イネ科 Sp				2	2	ホシシダ		3	1		2
コメスゲ	4	1		4		ゼンマイ		1	1		
フユイチゴ	4	2				コシダ		1			2
ナガバモジ				1		コウラジロ		3		2	
イチゴ						ヒサカキ			1	1	
ハナミョウガ	3	1		2	1	コジイ	1	1		1	
シュンラン				2		ヤツデ		1			
ヌマダイコン			4	1		ヨモギ			2		
ヌヒトギ		1				ドクダミ		3			
ウシハコベ				1		イヌタデ			2		
ヤマノイモ		3									

表-2 ヒノキ林における月別食餌植物

注)◎は採食量の多かったもの

採食部位 B:芽 F:花 E:穂 R:花軸

科名	種名	採食部位	月											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
イネ科	チヂミザサ	L.E.					○	○				◎	◎	◎
	アシボソ	L.E.										◎	◎	◎
	ススキ	L.	○		○						○			○
バラ科	スズメノカタビラ	L.			○									
	ノイバラ	T.L.	○	○			○	○	○					○
	フユイチゴ	S.P.	◎	○			○							◎
マメ科	ヒメバライチゴ	T.L.	○				○	○						○
	ナガバモジイチゴ	T.	○	○			○							○
	クマイチゴ	L.											○	
ヤマノイモ科	キンミズヒキ	L.S.												○
	ピロードイチゴ	L.T.	○											○
	クズ	L.S.B					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
キク科	ネムノキ	T.BK.	○	○										○
	ヤマハギ	L.S.												○
	ヤマノイモ	L.												◎
タデ科	カエデ	L.												○
	シソ	L.S.												○
	シラヤマギク	L.												○
ユリ科	ザシバリ	F.R.												○
	ヨモギ	L.												○
	ノアザミ	L.R.												○
セリ科	アキノノゲシ	L.S.												○
	ペニバナボロギク	L.F.R												○
	サルトリイバラ	S.												○
イネ科	イソシラン	L.												○
	ツボクサ	L.P.												○
	ウマノミツバ	L.												○
タデ科	ミゼン	L.												○
	スイバ	L.												○
	アカネ	L.S.												○
カヤツリグサ科	コゴメスゲ	L.E.	◎	◎										◎
	シラスゲ	L.	◎	◎										◎
	オカトラノオ	L.S.												○
ウコギ科	キカラスウリ	L.												○
	ハナミョウガ	L.												○
	オシダ	L.												○
クワ科	イシカガマ	L.												○
	イヌビワ	T.BK.	◎	◎										◎
	カルジノキ	T.	◎	◎										◎
クスノキ科	ツルクワ	S.												○
	アオモジ	T.												○
	クスノキ	T.												○
スイカズラ科	ガマズミ	T.												○
	スイカズラ	S.												○
	アカメガシ	T.BK.	○	○										○
トウダイグサ科	イヌザンショウ	T.												○
	カラズザンショウ	T.												○
	ヤツデ	P.												○
ツバキ科	ヒサカキ	T.	◎	◎										◎
	ナワシログミ	T.												○
	ユキシタ	T.												○
ニレ科	ニガキ	T.												○
	アラカシ	T.L.												○
	エノキ	T.												○
イラクサ科	ハゼノキ	T.												○
	イワガネ	T.												○
	ツルメモドキ	S.												○
ヒノキ科	モクレン	L.S.												○
	サネカズラ	L.S.												○
	ヒノキ	BK.T	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

引用文献

- (1) 谷口 明:野兎研究会誌 9, 31~40, 1982
- (2) 大津正英:山形林試研報 5, 19~23, 1974